

「tovo」について

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。10年間の活動を目指しています。おかげさまで、**2011年6月から2016年2月29日現在までの総寄付金は、「¥4,016,100-」**となりました。引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

フリーペーパー「tovo plus」



「tovo plus」は、tovoの発行する月刊のフリーペーパーです。月に1度、青森県内のご家族のお話を伺い、311以降の考え方や生活の変化を追っています。100号、100ヶ月、100家族が目標です。

※1年間（12号）の定期購読（1,800円）を承ります。ショップサイトよりお申し込みください。



「ブックログのバナー」にてPDF配信中！

<http://p.booklog.jp/users/tovo2011>

缶バッジお取り扱い店（順不同）

【青森市】

A-Factory（柳川1-4-2）／kotabi コタビ（新町1丁目5-6）
幸せ写真スタジオクローバー（浜田3-1-1 ドリームタウンA12F）
肴ダイニング心（本町5-7-21 本町VILLA 1F）
大澤歯科医院（羽白沢田44-8）／とき歯科（原別5丁目9-1）
oppen plaza sora（金沢1丁目5-2）
oppen plaza sena（石江江渡52-22）
アトリエCANOE（桜川5-5-11）
R&C株式会社青森支社（長島1-6-6 CROSS TOWER A-BAY4F）

【弘前市】

RiとBiのたまご（大町3-2-9 1F）／弦や（本町76-1）
HOMEWORKS 4th（土手町79-1）／chicori チコリ（坂本町2）
bambooforest（代官町20-1）／津軽工房社（元寺町52）
中国料理 豪華楼（駅前町7-5 おおまち共同パーク1F）

虹の向こうに⑦ ～Fuhito（ファシリテーター／青森市在住）



2016年1月末、あしなが育英会が山田町の公共施設で開催した「山田ワンデブプログラム」に参加してきました。

この日集まったのは、子どもたち約10人とその保護者。ファシリテーターは私を含め4人で、彼らの自由遊びにとことん付き合いました。終始体を動かしエネルギーを爆発させている子がいれば、お絵かきや手芸など静かな遊びに徹する子、両方を行ったり来たりする子とさまざまです。

子どもたちは、その時々感情をあらわにしても、大人のように不安を明かしたり日ごろ考えていることを述べたりすることはあまりありません。だからこそ、私たちファシリテーターは、彼らがどんな遊びを好んでいるかや、言葉や態度などで、どんな状態なのか感じ取ろうとします。

震災から5年、子どもたちは大きくなりました。1歳数カ月だった子が年中さんになり、就学前だった子が小学校低学年。当時は言葉すら持たなかった彼らが、ほんの時々、震災や津波への不安や、大切な人が亡くなったことについて口にする瞬間があります。ほろりとこぼれた言葉に、私ははっとさせられ、ただ静かに耳を傾けます。

写真は、5年生の女の子と一緒に遊びながら私に作ってくれたカラーゴムのプレスレット。「あげる」と言った彼女の声の優しさを、これを見るたび思い出します。

【五所川原市】

パークイン五所川原（唐笠柳藤巻66-12）
コミュニティーカフェでる・そーれ（大町39）
むすぶカフェえいぶる（金木町朝日山85-4）

【黒石市】

木田理容所（内町29）／津軽黒石こみせ駅（中町5）

【上北郡】

西洋料理 ビストロ らあく（七戸町影津内34-10）
TBT英会話教室（東北町旭南1丁目322）

【福島県】

zakka market モカフルー（会津若松市城西町5-9）

お取り扱い店は随時募集中です。

お気軽にメール（info@tovo2011.com）にてお問い合わせください。



www.tovo2011.com

TAKE FREE
Vol.11(MAR.2016)

りんごの木箱で有名な
北欧家具・雑貨セレクトショップ **monoHAUS** さんに別注しました！

LP/EP/CD 用 りんご箱（青森県産松材 無塗装）



2016年春～発売予定

① LP用木箱 予価3,000円(税抜)
幅350mm×奥行375mm×高340mm
② EP(7")用木箱 予価1,800円(税抜)
幅220mm×奥行375mm×高210mm
③ CD用木箱 予価1,400円(税抜)
幅170mm×奥行375mm×高160mm

📶 トヴォの最新情報は以下で更新中です。

👁️ tovo2011.com 🛒 shop.tovo2011.com 📧 @tovo2011
📘 <https://www.facebook.com/tovo2011> 📺 @tovo2011

【発行】代表：小山田 和正（mail: info@tovo2011.com）

住所：〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1

【表紙撮影】工藤 文昭



教員だからできること、 高校生だからできること。

岐阜県立東濃実業高等学校教諭 森 俊樹



忘れもしない、2011年10月12日（僕の誕生日の夜！）、当時は岐阜県内の別の高校に勤務されていた森俊樹先生から、授業の一環としてtovoの商品を販売実習に使わせてもらえないかというご連絡を頂きました。

ちょうど、2011年6月にスタートした、当時は名前さえなかった田舎の小さなチャリティプロジェクトが、口コミでジワリジワリと話題になってきた頃のことでした。

僕は、1人で細く長く続けていこうと考えていたプロジェクトが、急に広がっていくことへの不安と、「青森からの支援」をコンセプトにしているにも関わらず、県外からのお問い合わせが多くなっていることへの戸惑いを感じていました。

その不安と戸惑いを一蹴し、一歩踏み出すきっかけと勇気を与えてくれたのが森先生と生徒さんたちでした。この時の販売実習の成功は大きな転機となり、以降、tovoは県外へ広がっていくこととなりました。

あれから早いもので丸4年が経過しました。森先生は、現在も継続的に支援してくださっている方の1人です。

2011年、東日本大震災が起きました。何か力になりたいと思うだけで、どうすればいいかわからず何もできずにいました。

当時勤務していた学校で、先輩の先生からクラスで支援活動をやってみては、とアドバイスをいただき、クラスの生徒に提案してみました。生徒たちも僕と同じ気持ちでした。

生徒たちはインターネットを使って、いくつものチャリティ商品を見つけてきました。その中で、たまたま最初に連絡をしたのがtovoでした。その日は小山田さんの誕生日でした。サイトで紹介していただき、それを見た生徒も僕も喜び、感動したのを今でも覚えています。人の出会いは、いくつもの偶然が重なって起こるものだと思っています。小山田さんとの出会いには何か特別なものを

感じました。

震災が起こってすぐに、tovoの活動を始めた小山田さんの行動力や決断力、勇気はすごいと思います。尊敬しています。僕は教員という立場だからできること、高校生だからできることをしようと思っています。今の学校でも生徒の力を借りて、できることをできる範囲でさせていただきます。

学校では生徒たちに「こんな力をつけたい」という目的があって、活動を計画するのが普通ですが、この活動に関しては「被災地の子どもたちのために」という目的で協力させていただいています。結果的に生徒たちが何かを感じてくれればいいし、今後の生き方に影響があればいいと思っています。



2016年1月15日、岐阜県可児市文化センターにて開催されました「岐阜県立東濃実業高等学校 学習成果発表会」にて、同校起業創造類化の生徒さんたちがtovoチャリティグッズを販売してくれました。当日は、この日の為に、1年間にわたり生徒さんたちと共に試行錯誤してきた「クリアファイル」と「2色ボールペン」の2商品を制作・販売致しました。以下、生徒さんからの学習成果発表会報告です。

学習成果発表会報告

岐阜県立東濃実業高等学校 棚橋 和香菜



今年度1年を通してtovoの活動に関わらせていただきありがとうございました。メールでの連絡手段でしたが、小山田さんのおかげでとてもスムーズに進めることができました。とても嬉しかったです。原価や売価を考えたうえで商品を決定していくということが、とても難しいということを経験させていただきました。

販売をする際、どうしたらよいのかたくさん考え、POP広告を作ったり、宣伝のための校内ポスターを作ったり、呼びかけをしたり、SNSを使って情報を拡散したりと様々なことをしてきました。販売の際に宣伝をした効果があり、「東日本大震災で親を失った子たちの支援だね」と知っていただき、支援に協力をして下さる方が沢山いました。

東日本大震災が起きたとき、私はまだ中学生で

した。被害の様子をテレビでみてすごく驚いたのを今でも覚えています。地震だけではなく、津波による被害により、多くの犠牲者を出してしまいました。まだ幼かった子が、いつも家に帰れば当たり前にいる家族がいなくなったと思うと、とても心が痛みます。その心の傷は、きっと一生続いてしまうと思います。でも、そんな子どもたちに支援をすることができる活動をさせて頂き本当にありがとうございました。東日本大震災のことを忘れてしまっている人が沢山いる中で、まだ、復興は終わっていないということをお伝えされたと思います。チャリティグッズを販売しているときに、このお金が子ども達に届くのだと思ったら、なんだか嬉しい気持ちになった半面まだ何かできるのではないかと思います。私たちにできることは少ないと思いますが、また東日本大震災の支援に協力ができる機会があった時には支援をしていきたいです。

東日本大震災やtovoの活動を通じて、周りで支えてくれている人に感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと改めて感じました。短い間でしたが沢山のことを学ばせて頂き本当にありがとうございました。